

備後福山藩主 水野美作守勝俊公 菩提寺  
 長久山 妙政寺史

長久山 妙政寺 略史



(一)

福山城北の地吉津町に位置し、京都妙伝寺末である。当山はかつて天正年中（一五七三）三州刈屋において水野和泉守忠

重（福山藩主初代水野勝成公の父）の家臣、上田無甚斎正勢大居士位の創建になつた寺である。寛永五年（一六二八）住職、恕正院日有聖人の時代、これを

福山寺町の寿量山寂圓寺〔元和年中（二六二五）三州岡崎より移建、浄土眞宗、現、光善寺に合併〕前に移建した。そして寛文六年（一六六六）九月には水野家家老の上田玄蕃氏（無甚斎氏の孫）が、さらに北吉津町に寺社仏閣移転の地に、その跡地を含め規模を拡張して妙政寺をここに移転再興させ、現代に発展させる基礎固めをした。

宗門は、「備前法華」に相對する「備後法華」としてその名があり、まさに宗門伝道の一大拠点となっていた。特に備後三山中本寺格の水呑町妙顕寺並びに熊野町常国寺を中心としてその盛行には講中の組織なども含めて、かなり熱心なものがあつた。

江戸幕藩体制下幕府の仏教保護政策に呼応して、日蓮宗門にみる偉大な名僧・学僧の輩出は、行学二道の精進から、より多くの帰依信奉者を全国的に統出せしめ、いよいよ宗門寺院の隆盛を将来させているが、その類例にもれず当山にあっては、城主水野勝俊公が大檀那となり、絶大な外護をしてその繁栄を一段と高めた。

その理由は、慶安五年（一六五二）勝俊の息女万寿姫が病疾のため、その全快を

期すべく当山に祈祷を命じたことにはじまり、その靈験にこたえて自ら改宗して大信者となっている。現在もその規模拡大にして当時創建された大本堂、新築なった近代施設を誇る大庫裡、旧来の山門、新たに改築された位牌堂、大庭園などが完備され、その

成羽に生誕し、母は三村紀伊守親成の養女であるが、実は家臣藤井広玄氏の娘であった。彼は慶長十三年(一六〇八)二代將軍秀忠公に仕え、美作守に、任ぜられた。大坂冬・夏の兩陣には父勝成と共に戦功をたてている。

周辺の民衆から、「軻殿」と言われた所以もここにある。よってその嫡男勝貞公は、寛永二年(一六二五)六月二十八日軻で生誕している。

戸で、上田七兵衛氏、田中十郎右衛門氏、横山惣右衛門氏、西山半左衛門氏の四名は当福山の地で殉死しており、各靈墓もまた当山に祀られている。

鐘は福山の城郭築造に土木工事の名手と仰がれた神谷治郎長次氏が、信解院殿理圓日證大居士(勝俊公)の追善のため、明暦二年(一六五六)鑄造したものであつて、第二次世界大戦中といえども特にその存置命令によつて現在に保存されたものである。

偉容には圧倒されるかの感深く、まさに戦災後の備後福山市における、地の利を得た最大級の中本寺格寺院として、その盛況を極めている。かつて福山藩より六十二石、一五人扶持が給付されていたことを知ればなおさらである。

水野勝成公は、元和五年(一六二九)備後に移封せられ、近世都市福山の城下町を形成させるに尽力した初代藩主であるが、民政に尽し、池溝を設け、新涯を築き、杜寺を興すほか文教政策にも大いに意を用いた著名な藩主であった。福山城の完成は元和八年(一六二二)であり、

さて、勝俊公は嘉永五年(一六二八)の熊本城の請取りも父と共に下向し、また寛永十六年(一六三九)二月、島原の乱にも父に従つて参戦し、子息勝貞と共に島原城本丸の先登をなしたことで有名である。この年から家督を襲ぎ、参勤するようになっていく。勝俊公は承応四年(一六五五)二月二十一日江戸桜田邸で五十八才の天寿を終え、葬礼は江戸芝二本

勝俊公の正室は九鬼長門守藤原守隆公の娘であり、寛文二年(一六六二)死去、江戸深川靈岸寺に葬られている。その他、阿部公正室(佐原氏子)、阿部藩の儒臣として伊藤仁斉氏の二子、東涯の異母弟たる伊藤梅宇氏の室佐野氏の墓や、福山藩学弘道館(誠之館の前身)で教授職にあつた儒家衣川氏、および阿部家筆頭佐原氏代々の靈墓など著名人の墓碑が多い。また水野重郎三衛門氏並びに宮本武蔵氏、平井氏寄進の六角型大石灯籠一対や、鐘樓にみる大梵鐘は福山にとつて由緒深いものである。殊にこの釣

「臨終記」の他、寺宝として数百点の優品が伝存すること付記しておく。(現在、福山城博物館にすべてあずけてある。)

水野美作守勝俊公は、初代福山藩主勝成公の嫡男にして、はじめ勝重と呼んだがのち勝俊と改めている。慶長三年(一五九八)七月二十五日備中

葦陽城または久松城とも呼称されている。この初代勝成公が福山に入城した事情から、二代勝俊公は海南を鎮護する任にあたり軻の津に住した。かれが

榎の中本寺格承教寺で行われ、遺骨はその後当妙政寺に納められた。この殉死者七名のうち三宅半助氏、河上一郎右衛門氏、馬場長右衛門氏の三名は江

鐘は福山の城郭築造に土木工事の名手と仰がれた神谷治郎長次氏が、信解院殿理圓日證大居士(勝俊公)の追善のため、明暦二年(一六五六)鑄造したものであつて、第二次世界大戦中といえども特にその存置命令によつて現在に保存されたものである。

これらに加えて、宗門の宗宝、准家宝日蓮大聖人御真筆断簡二幅、日重、日乾・日遠三師の本尊三幅対、了義院日達上人真筆の本尊一幅、狩野探幽筆の水墨山水図三幅対、狩野永徳筆の水墨達磨画像一幅、俳人野々口立圃筆卷子仕立

宗 祖 立正大師高祖日蓮大聖人

弘安五年十月十三日御入滅（二二八二年）六十歳

本山開基 円教院日意聖人 永正十六年二月三日ご遷化七十六歳（一五一九年）

総本山身延山久遠寺十二世 京都本山妙伝寺開祖一世。名は法鏡  
位牌有

身延朝意伝三師の日意聖人。日朝弟子。

京都本山頂妙寺開祖 妙國院日祝聖人 永正十年（二五三年）四月十二日

日宥聖人師僧 了智院日健聖人 天和三年九月二十九日ご遷化（二六八三年）

京都本山妙伝寺十四世と書に本人花押有（記録十五世）

鷹ヶ峯 文五世、玄三世。名は通念

日達法縁縁組 了義院日達聖人 延享四年二月二十六日ご遷化七十一歳

（二七四七年）

日達大和尚。達師法縁祖、当山十一世〜十三世歴代聖人の師僧。

大本山京都本圀寺二十六世。

開基檀越 上田無甚齋正勢居士位（大乘院殿功德無甚齋正勢道源日論大居士）

文録元年十二月二八日寂（一五九二年）

水野福山藩筆頭家老の上田玄蕃祖父。天正年中一五七三年頃に三

河國三州刈谷に創建される。

日宥師、寺号を備後福山東町に寛永五年（一六二八年）移転。寛

文六年（一六六六年）九月にはさらに無甚齋氏孫の上田玄蕃氏が

現在地の北吉津に移転。今日にいたる。

開基 一世 恕正院日宥聖人（中興）寛文十一年十二月二十二日遷化六十三

歳（二六七一年）二十三日遷化とも

（水野日宥）福山鞆の人 当山開山、過去帳には中興、開基と記載。

三州刈谷より備後福山へ当山を移してからの当山開祖日宥師師僧

本山妙伝寺十四世日健師。

松崎檀林化主。 鞆法宣寺十七世。福山藩主の勝俊公についていた人。四十五歳時の大曼荼羅有

本院恵了坊開山惠妙院日行大徳師は日宥聖人弟子。 位牌有。

二世 本照院日任聖人（中興） 寛文二年五月二十三日遷化五十一歳

（二六六二年）

（水野日任） 本院歴代受格院日進大徳は弟子。京都鷹ヶ峯玄義能化。

左少弁藤原朝臣権大納言より萬治二年に位を賜る 権津師 位

旧過去帳に中興と記載。鐘楼堂鐘日任代花押、三十番神像裏書き有。

三世 光照院日尊聖人（中興） 寛文三年八月十一日遷化五十歳

（二六六三年）

（水野日尊）

※慶安五年勝俊公息女万寿姫病為祈願全快し、靈験に答え改宗

し、大信者となると昭和五十一年の略史記載有。又、雨祈禱によ

り二代藩主美作守大檀那となると当山古文書に記載有。旧過去帳

に中興と記載。

四世 量詮院日住聖人（中興） 元禄三年十月六日遷化六十一歳

（二六九〇年）

日近改め日住（水野日住） 過去帳には中興と記載。（詮量院と大

本山には記載）

京都本山本法寺二十四世。千葉大本山中山法華経寺四十八世。

京都東山檀林善正寺九世文能。

師僧は京都本山本法寺十七世詮量院日休聖人。

五世 法乘院日登聖人（中興） 天和三年四月十八日遷化五十四歳

（二六八三年）

（水野日登） 過去帳には中興と記載。本院五世とも記載。

六世 顕成院日言甚聖人（中興） 元禄二年二月八日遷化（二六八九年）

(水野日言甚) 過去帳には中興と記載。

七世 遠成院日實聖人 元禄十六年八月二十九日遷化(三十日とも)

(一七〇三年)

(水野日實) 名は良叔。

京都本山妙伝寺二十六世。

千葉飯高檀林教蔵院玄能二十七世 京都東山檀林善正寺文能十二

世。

八世 三學院日泰聖人(中興) 享保六年四月二十一日遷化(一七二二年)

(水野日泰) 過去帳には中興と記載。(天津本長寺八世で三覚院と

記載)

九世 大通院日暹聖人 宝暦三年十月四日遷化(一七五三年)

(水野日暹) 昭和五十一年の略史の文通院は印刷ミス。 首題、

絵宝物寄進有。

十世 法運院日乘聖人 享保九年十月八日遷化(一七二四年)

(水野日乘) 京都松ヶ崎檀林本涌寺四十世。 阿部公絵寄進。

日乗師と日達師との関係は法弟か弟子か師範か。なぜ日達弟子の

十一世日圓師が十一世に晋山したかは不明

十一世 一音院日圓聖人 寛延四年六月六日遷化(一七五一年)

(水野日實) 京都松ヶ崎檀林本涌寺五十二世、達師弟子。 歴代

一覽位牌建立。三大師絵寄進 『日達大和尚師高足三師の一人。日

達大和尚師の高足三師』

十二世 乾亨院日延聖人 宝暦十二年六月六日遷化七十歳(一七六二年)

(水野日延) 京都松ヶ崎檀林本涌寺六十三世。白蓮院日清とも日

蓮宗辞典記載有 『日達大和尚師高足三師の一人。日達大和尚師の

高足三師』

日圓法弟(輒隠居処で遷化で 輒頭政寺六世と有)

十三世 真境院日顛聖人 寛延元年五月五日遷化(一七四八年)

(水野日顛) ※(延享五年五月五日と墓石に記載) 寺尾師書中村

八十七世と記載。 『日達大和尚師高足三師の一人。日達大和尚師

の高足三師』

京都洛陽鷹峯寂光山高照講寺七十世 千葉本山日本講寺中村檀林

八十四世能化と墓に記載有。

日延法弟。

十四世 唯信院日淨聖人 天明二年七月二十三日遷化八十歳(一七八三年)

(水野日淨) 今治の池田氏出。妙政寺記録帳作成 位牌有り(十

四世、十五世連名)

隱居所開基と位牌に記載 京都鶏冠井檀林文講百五世能化墓 大

本山大光山學頭

大光山塔中玉林院十四世 妙階寺旧跡戒善院十九世 丹波福知山

常照寺三十二世と墓石に

※朝廷中納言様より当山に日淨、日達兩聖人代に永代従本山号、

永代緋紋白袈裟使用賜る。

日顛弟子。母当山で死す、又、父は池田氏今治の人、日淨師今治

生 当山隱居す。

師範は大本山本圀寺二十七世慈光院日充師、又転住冠山能化旧過

去帳記載冠山九五。

※円如院日能聖人は日達師の弟子。寛政四年(一七九二) 一月九

日遷化と旧過去帳記。

十五世 只信院日逢聖人 享和二年八月十一日遷化七十六歳(一八〇二年)

(水野日逢) 位牌有(十五世、十九世連名) 名は円朗。立正大学

の寺尾師書には求法九十五世と記載。

京都妙伝寺四十三世 京都檀林求法院大本山本圀寺玄能百二十九

世能化。

千葉本山日本寺両能百五十八世中村檀林學頭能化。

朝廷中納言様より当山に日浄、日逢う代に永代従本山号、永代緋紋白袈裟使用賜る。

日浄弟子※妙政寺「永代記録三冊」作成。親王書寄進有。

十六世 唯妙院日領聖人 寛政十三年一月十一日遷化（一八〇一年）

（水野日領） 位牌有。妙政寺記録「得意記」日浄永代記録三冊写し作成。

日逢弟子。岡山備中小田円融寺二十一世 福山高光山長正寺七世。

十七世 唯法院日飲聖人 文化八年三月四日遷化（一八一二年）

（水野日飲） 千葉松崎山玄講と墓石に記載有。日領弟子。

十八世 圓隆院日應聖人 文政六年十月十八日遷化（一八三三年）

京の人？

（水野日應） 書寄進有。日應法弟日實師は小田円入寺から備後三

山中本寺の福山妙頭寺三十二世へ一相院日實聖人。

日応乳母は過去帳に記載、土族出家。

十九世 信得院日教聖人 嘉永六年二月十二日遷化（一八五三年）

（水野日教） 本山学頭山科玄講墓石記載有学頭一老八ヶ年 位牌有（十五世、十九世連名）

日縫弟子。徳島妙永寺十世で、二十五年在、六十才に転住と記載。

二十一世 修妙院日登聖人 安政五年九月十四日遷化六十一歳（一八五八年）

（水野日登） 信徳日教弟子、阿州徳嶋人。名岡田啓運。

墓石に 京都求法玄・文両講主能化、松崎文講主と有。

福山市川口村末寺守妙院開祖、開基は阿部家家臣青木親義。嘉永

五年三月創立 昭和四十年代妙政寺合併

位牌有。十九世日教弟子。徳島妙永寺十一世 頂妙寺内成就院

歴代、当院墓石三世と記載？

頼法宣寺歴代墓連名で信妙院日暹 親教師と記載有。 大曼茶羅

本尊有

天明六年日教弟子求法院能化と求過去帳記載。

二十二世 妙淳院日直聖人 明治十一年十二月五日遷化六十二歳（一八七八

年）六十一歳とも

（水野日直） 位牌有。

中山妙円寺三十七世 中山本行院三十四世 松崎化主 本山講師。

京都寿延寺二十七世 岩本実相寺観寿院日暈四十五世の附弟。永

代過去帳曼茶羅御本尊有

二十三世 妙修院日顯聖人 明治三十二年八月三十日遷化六十歳

（一八九九年）

（水野日顯）（総監） 六代及び十代宗務総長。大僧正。行広茂助次

男。天保十一年八月二十九日生

名は慈照。 本山頂妙寺四十五世 大本山中山百十五世※各本山

歴代表には三十一日遷化と記載

中村檀林學頭。松崎化主と旧過去帳に記載。 頼法宣寺より転住。

位牌有。 寺町光政寺二十世、本山頂妙寺四十七世の慈舟院日英聖

人の師僧。

日登弟子。 頼法宣寺四十六世、代務住職（歴代）と岡山県時代

の任命書有。

二十四世 妙信院日輝聖人 大正五年三月一日遷化七十二歳（一九一六年）

妙政寺得度

（壇上日輝） 大僧都 日登弟子、日顯法弟。名は壇上啓岸、弘化

二年十二月二十四日生。 位牌堂有

備後國深津郡福山町字笠岡町壇上和助次男、弘化二年十二月

二十五日生まれ。安政元年十二月登得度。茶人と云う。弟子大曼茶羅本尊有

福山光政寺十九世より約六年 蓮瑞寺歴代 末寺守妙院歴代 末寺恵了坊歴代廃寺。

初代宗務所録司 宗務所所長、立正報国会初代会長

※葬儀歎徳文頂妙寺四十七世（光政寺二十世）慈舟院日英師。

※恵了坊は明治三十五年に廃寺となったので日輝師の代で終。

歴代

本輝院日貫聖人 （准歴代） 明治三十九年八月十五日遷化（一九〇六年）

下総大野本光寺歴代三千世 神奈川頭妙寺歴代。明治三十九・八十五

位牌有

中村学林薫す。日輝弟子 中山妙応寺（准歴）にて遷化。郷分村

岩佐傳十郎次男

日登弟子。

二十五世 慈教院日修聖人 （加歴） 大正十二年一月五日遷化八十歳（一九二三年）

（喜多村日修）二十一代管長。大僧正 末寺恵了坊歴代、喜多村

源六氏三男弘化元年三月三日生

本京都頂妙寺四十六世 大本山中山法華経百十八世 中山遠寿

院二十六世。

福山山手村出身名は啓善。 位牌有

二十五世 本信院日静聖人 昭和十三年六月二十四日遷化六十歳

（一九二八年）

（宇根海弁）福山津之郷出、宇根好太郎氏次男。日輝聖人弟子。

大僧正。位牌有。

千葉中山妙応寺歴代 宗務所録司 宗務所所長 宗会議員。立正

報国会会長。

蓮瑞寺歴代、守妙院歴代

首題、大曼茶羅御本尊有。

二十六世 静信院日敬聖人（中興）昭和五十九年一月七日遷化七十二歳

（一九八四年）

（宇根海淳）僧正、日静弟子養子、旧備後領主直系子孫 渡邊励

道師四男 蓮瑞寺十四世旧（渡邊淳平）岡山弓削町蓮久寺出身京

都本山頂妙寺贈歴七十一世。守妙院歴代で当山に合併する。

首題有。位牌有。宗務所所長 宗会議員。

備後三山香華院妙政寺・備後廣島達師法縁法縁長（備後三山傳師

法縁法縁長水吞妙頭寺・備後三山親師法縁法縁長山田常國寺）

二十七世 修信院日款上人 東京江戸川妙泉寺二十四世現薫（福山蓮瑞寺

十五世）岡山蓮久寺長谷川敬敏師実兄

僧正 二六世日敬聖人弟子。

二十八世 弘導院日淳上人 福山加茂妙永寺 二十一世現薫。一乗寺代

務住職 本覚寺代務住職。

僧正 二六世日敬聖人弟子。

現住職 二十九世 慈尚院日祐上人 東京都出身。昭和三十六年九月三十日。

（一九六一年）生れ 蓮瑞寺十六世代務住職。僧正

師僧鎌倉葉王寺五十一世慈亭院日照聖人

（大梵慈稔師・元大本山池土本門寺執事長、七百遠忌部長。大僧正）

（当山二七世日款上人弟子）

（二九世海静日祐弟子の海将、海修、慎之助三名は孫弟子）

本山頂妙寺参与・広島県協議員。

〔平成元年四月八日大本山池土本門寺より、当山へ赴任。平成三

年四月二十日妙政寺並びにかさもりさん蓮瑞寺へ入山。〕

六世 顕成院日諶聖人 京都法華寺歴代

# 日蓮宗 備後 長久山 妙政寺

## 古文書より

寺格は従本山永聖緋紋白寺跡「永代従本山号及緋紋白袈裟使用許可を日浄日逢聖人代拝受天明四年。朝廷より役職の中納言松之木家より」

(寺院大観には中本寺、緋金欄跡と記載。) 日任へ「左少弁藤原朝臣昭唐傳宣権大納言藤原朝臣弘資宣本勅件人日任権津師者」(任職任命書のこと。)

萬治二年四月二十二日記載 妙政寺へ永代聖人号拝受本山頂妙寺十四世日健聖人より 慶安五年二月吉日賜ると記載

末寺二寺「恵了坊」境内東側角地(現在は森田泰元宅地)に上田玄蕃開基、開山恵明院 日行上人、妙政寺合弁となり現在 寺号は呉市法華寺として現存する。

「守妙院(守妙寺)元福山市川口町一八三五番地にあり(現在は産業道路、石碑有)。昭和四十六年十一月三十日に妙政寺に宇根海淳上人代に合併。二十一世日登聖人建立。広島県知事は昭和四十七年六月二十日に受理済

備後國福山藩 藩主 水野勝俊公菩提寺。一番家老上田 公開基。

(阿部藩一番家老佐原氏、青木家、衣川儒学者教授職、阿部公御正室、豪商奈良屋、隅屋、黒金屋平井氏息女尼等墓地有り)

○開基は水野福山藩城代家老、上田玄蕃祖父、上田無甚齋正勢居士(天正年中一五七三年)創建。

文禄元年(一五九二年)十二月二十八日寂。当山開山。

○備後福山藩 藩主 水野美作守勝俊公

妙法信解院殿理円日證大居士 承応四年二月二十一日逝去(一六五五)高輪承教寺にて荼毘。

○水野勝俊御息女 萬千代(たまひめ)

玉山妙珠尊儀位 慶安五年(一六五二年)一月十一日寂

○上田玄蕃公(福山藩 筆頭城代家老)

觀靜院殿智見道勇日進大居士 延宝五年九月十四日逝去(一六七七)

水野福山藩城代家老、上田玄蕃氏祖父、上田無甚齋正勢居士(天正年中一五七三年)創建。

妙政寺は天正年中三州 刈屋に創建されたものを、福山の城下町づくりと呼応して寛永年中当山中興開基日宥聖人のとき 当地に移し、寛文六年九月家老職上田玄蕃が現在地に再建したものです。

う格式を有した名刹でありました。

仏祖の御慈愛、皆々さ

まの御援助によつて昭和

の大改修および新築成る

に当つて、一層の日蓮義

を宣揚すべく宗門弘通の

一大道場とし、また檀信

徒の生活の核として大い

なる活用を希い、仏法繁

盛・立正報国の悲願を達

成すべく、これらをもつ

て次代に発展させるべく

願い切なるものがありま

す。

合掌

昭和五十八年五月二十五日

長久山 妙政寺二六世

宇根 海 淳

同総代 林 治

下 井 桂 一

小 島 理 一

営繕委員会委員一同

(※下書きより記)

